

# 2017年 スポーツクライミング ユース日本代表 選考基準 概要

## ユース日本代表選手団の目標(2020年まで)

- ★ 2017年:世界ユース選手権大会で、【単種目L&B】2カテゴリー優勝、【コンバインド】3カテゴリー入賞
- ★ 2017-2020年:2020年東京五輪で優勝できる人材の育成・強化(2017-2020年)

- ★ 2018年:ユースオリンピック競技大会で男女メダル獲得、世界ユース選手権大会で【単種目L&B】3カテゴリー優勝、【コンバインド】2カテゴリーメダル獲得
- ★ 2019年:世界ユース選手権大会で、【単種目L&B】4カテゴリー優勝、【コンバインド】3カテゴリーメダル獲得

## ユース日本代表選手へ求める選手像

1. 日本代表選手としての自覚を持ち、競技結果に対して最大限の努力を惜しまず常に向上心を持ち、多くの選手の見本となる選手
2. 競技中のみだけでなく、さまざまな場面に対応し、社会的に認められる人間力を高める意思を持つ選手
3. 単種目でも、複合種目でも競技力の高い選手
4. 参加各国・地域と友好との国際親善に寄与できる選手

## 選手選考基準 一覧表

※日本代表選手の決定は公益社団法人日本山岳協会がおこなう

単種目	選考方針	<ジュニア・ユースA> 2016年の国際大会(世界ユース選手権、ワールドカップ)で活躍し、ユース日本代表のトップ選手として活躍が期待できる選手 <ユースB> 2016年の世界大会で上位選手と戦える可能性を示し、今後の活躍が期待できる選手
	選考方法	・リード:全日本クライミングユース選手権大会(3月) ・ボルダリング:全日本クライミングユース選手権大会(5月) <span style="float:right">} 男女各カテゴリーの優勝者(12名)</span>
	特典	※ジュニアおよびユースAで、ボルダリングのフル代表にも選ばれている選手について 2017年6月時点(アメリカVail大会)で、世界ランキング20位以内の選手も+@で選考する 単種目で選ばれた選手でも、コンバインドにチャレンジできる
複合	選考方針	<全カテゴリー> オリンピックの複合種目を見据え、複数の種目で競技力の高い選手
	選考方法	リード・ボルダリング両方の国内選考大会に出場している選手のうち、複合ポイントの小さいものから順に選考(男女合わせて6名程度、カテゴリー不問) *複合ポイント=リード順位×ボルダリング順位
	特典	
IFSC枠	選考方針	2016年の国際大会で優秀な成績を納め、ユース日本代表のトップ選手として活躍が期待できる選手
	選考方法	2016年の世界・アジア選手権および世界ユース・アジアユース選手権大会(*)で優勝した者 ※アジアユースIFSC枠保有選手は、2017年の国内選考大会の成績もしくは世界ランキングと照らし合わせて選考する。
	特典	2017年のユース日本代表選手として優先的に選考する
ユースC アジアユース 選手権大会 出場枠	選考方針	2017年の国内選考大会において優秀な成績を納め、アジアユース選手権大会でメダルを獲得できる選手
	選考方法	・リード:全日本クライミングユース選手権大会(3月) ・ボルダリング:全日本クライミングユース選手権大会(5月) <span style="float:right">} 男女優勝者(4名)</span>
	特典	単種目で選ばれた選手でも、コンバインドにチャレンジできる
特別選手 ※2018年 より適応 (試案)	選考方針	オリンピックにおいて活躍するために複数種目に取り組む意思を持ち世界大会での実績を持つ選手
	選考方法	世界ユース選手権の3位以内の選手に対し、特別選手としての権利が与えられる。ただし、各大会ごとに選手強化委員会において男女それぞれ最大1名ずつ決定する。
	特典	IFSCが主催する大会への派遣をB代表よりも優先的におこなう

## 選手選考 発表

2017年6月上旬 予定

<ユース国際大会 派遣期間>

- 世界ユース選手権大会(開催日:8月30日~9月10日)
- アジアユース(開催日:不確定)

※2018年の選考基準の試案

・オリンピックフォーマット決定後に、新たな選考基準を追加する可能性がある